

坂井市の女子高生が一筆啓上賞の資料館オープンをPR

福井県坂井市では、日本一短い手紙のコンクール「一筆啓上賞」を開催しており、昨年のコンクールで他界した妻への手紙を書いた西田晏皓さんの作品が大賞に選ばれました。8月23日には一筆啓上賞の資料館が坂井市内にオープンし、そのPRと大賞受賞者へお祝いの品を贈呈するため、福井県坂井市の職員と福井県立丸岡高校1年の女子生徒4人が、8月4日に市役所を訪れました。

プレゼンターを務めた生徒は、まず工藤市長に日本一短い手紙の書籍を贈呈。その後、西田さんに資料館の案内状と坂井市産の浴衣帯を手渡しました。西田さんは「誰と資料館に行こうか迷っちゃいますね」とコメントし、出席者の笑いを誘っていました。(関連22ページ)



行田で一番熱い夜

7月25日・26日に「第22回行田浮き城まつり」が開催されました。

2日間を通して天候に恵まれた今年の祭り。特に2日目は気温35度を超える猛暑日となりました。そんな中行われた「だんべ踊り」では、多くの方が参加しチームごとに趣向を凝らした衣装や振り付けで元気よく踊っていました。そして、祭りのフィナーレを飾ったのは「山車のたたき合い」。6台の山車がメインステージ前の交差点に集結し、威勢のいい掛け声と力強いばさばさで観客を魅了していました。文字通り一番熱い夜となったこの日、会場に詰めかけた誰もが、行田の夏の一大イベントを満喫しているようでした。



行田創生に向けて若手ならではのアイデアを提案

8月12日、市役所305会議室で市の若手職員による政策研究の発表会が行われました。

研究のテーマは「行田創生」。人口減少対策や子育て支援、雇用創出などまちを活性化させる施策について、今年5月から検討を重ねてきました。この日の発表会では、メンバーと共に練ってきたアイデアを披露。空き家を有効活用する「空き家リサイクル事業」や「忍城ウエディング大作戦」など、若手ならではの斬新な考えを聴衆に対して提案していました。



新たに結成されたヒーローが活動を開始

7月29日、住宅用火災警報器設置をPRするとともに、子供たちに防火教育を行うため消防本部に結成された「浮き城消防隊住警器マン」が太井保育園を訪れ、消防訓練を行いました。

住警器マンは、園児たちに対して災害発生時に守らなければならない「お・か・し・も・ち」を伝授。避難する際に押したり、駆けたりしないことをヒーローから教わった園児らは、その後実施された避難訓練でスムーズな動きを見せていました。また、園庭で行われた消火訓練で、職員に対して消火器の使い方を説明するとともに住宅用火災警報器設置を強く訴え掛けていました。



アートで町を元気に

7月24日から30日にかけて、忍町アートギャラリーが開催されました。

アートで行田を元気にしようと、牧禎舎を中心とした市内28店舗で作品の展示やワークショップを実施。26日に行われたワークショップでは、オリジナル足袋を制作しました。参加者はアクリル絵の具で好きな色や柄を描き、個性豊かな足袋を生み出していました。



伝統文化に触れて

8月4日から7日にかけて、中央公民館で実施された夏休み伝統文化体験教室。8月6日には、同館の和室で茶道教室が行われました。

この教室は、小学3年生以上の児童が対象。23人の参加者は学校や家庭では学ぶ機会が少ない茶道の作法や歴史を学びました。子供たちはこの体験を通じて、日本文化の魅力に触れることができたようです。



親子で一緒に「食」を学ぼう

8月8日、VIVAぎょうだ調理室で食育をテーマにした親子料理教室が開かれました。

この日は、行田市食生活改善推進員の指導のもと、「おにぎらず」「鶏肉のトマトクリーム煮」など4品に挑戦しました。完成した料理について参加者からは「おいしい」「家でも作れそう」との声が上がるなど、この教室を満喫した様子。親子で協力しながら料理に励むことで、より一層「食」に関心を持つことができたようです。